

# 日本医史学雑誌 第四十七卷 第一号 目次

原著

吉益家門人録の考察.....	町 泉寿郎.....	三
W・ハーヴィイのアナトミアと方法.....	月澤美代子.....	三
清医胡兆新の来日記録と業績——長崎における一八〇三〜一八〇五年の活動 (一) .....	郭 秀梅.....	六
Medicine and New Knowledge in Medieval Japan: Kajiwara Shōzen (1266-1337) and the "Man'ampo" (1) .....	Andrew Edmund GOBLE.....	三六

研究ノート

明治初期の陸軍軍医学校.....	黒澤 嘉幸.....	一〇五
明治以降昭和二十年までに熊本で発行された医学医事雑誌.....	岡村 良一.....	二九

資料

吉益家門人録 (一) .....	町 泉寿郎.....	一六三
------------------	------------	-----

記事

消息

日蘭交流四百年物故者法要 .....	多留 淳文.....	一七
日本医史学会関西支部平成十二年秋季大会 .....	長門谷洋治.....	一八
例会抄録 .....	深瀬 泰且.....	一八一
橋本伯寿『断毒論』の刊行年について .....	小曾戸 洋.....	一八三
火薬の発明と中国伝統医薬学 .....	片桐一男『江戸の蘭方医学事始 阿蘭陀通詞 吉雄幸左衛門耕牛』.....	一八四
紹介 .....	高橋 文.....	一八四

横田敏勝『名画の医学』	友吉	一六
M・B・A・オールドストーン『ウィルスの脅威』	加藤	一八
中村桂子『北里柴三郎』	会田	一八
文庫めぐり	恵	一六
京都府立医科大学附属図書館	藤田	二
九州大学附属図書館医学分館	俊夫	二
	ヴォルフガング・ミヒェル	二

《本号の表紙絵》

いわゆる軍中備用方の第2版の扉

ジェラード・バロン・ファン・スヴィーテン著の、いわゆる軍中備用方と一般に呼ばれたこの本は、題名を直訳すれば“野戦陣中でしばしば観察しうる疾患の短い記述と治療法”という。

図はヤコブ・ファン・デル・ハール蘭訳本の扉で1760年の第2版である(中西架蔵)。蘭訳本は初版も同年に出たらしい。スヴィーテンの数少ない名著のひとつで、十九世紀に入って江戸幕府も欲しがった。

12.7×25.0 cm、124頁(本文104頁、附録に71処方)を20ページにわたって収載。なお広告の頁に、クルムスの解剖図表(代価2.4フロリン)がのっている。

日本語重訳本は、宗田一氏によれば、宇田川榛斉の「遠西軍中備用方」、新宮涼庭の「内科則」、宇野蘭齊の「西医知要」(文政8年、1825年刊、第5版の訳、杏雨書屋架蔵)、吉雄権之助の「泰西軍中備用方」、高謙斉の「泰西軍中備用方」の5種がある。

本文中に“不潔の水を善水にする方法”や、“駆梅剤・スヴィーテン水”が記載され注目される。最近、宇田川訳本、新宮訳本の写本を入手できたので、今後の研究の糧にしたい。(中西 淳朗)